

鳴子ダム（FAQ）

※渇水対策本部解散日（R7.9.17）をもって更新を終了しました。

	問 い	答 え
Q1	今の貯水位、貯水率は？	・最新の貯水率は、国土交通省「川の防災情報」で確認できます。 【URL】 https://www.river.go.jp/kwabou/pcf/itmkndCd=7&ofcCd=21037&obsCd=1&isCurrent=true&fld=0
Q2	貯水率0%とはどういうこと？ なぜ0%でも水はあるの？	・貯水率0%とは、ダムに確保されている利水容量（かんがい等に活用する水の容量）の貯水量が無くなり、ダムの水位が「最低水位」といった水位に達した（下がった）ということです。 「最低水位」より上の容量が、ダムが水を溜めるための容量で、「最低水位」より下の容量は、「堆砂容量」といって、ダムを利用している長期の間に、土砂が貯まることを見越してあらかじめ確保してある容量となります。 「堆砂容量」が土砂で満たされていない場合、流水が「堆砂容量」部分に貯留されることから、貯水率0%でも水が貯まっています。 ダムの「堆砂容量」部分に貯留された流水は、もともと利用することを想定していない水ですが、利水者（かんがい用水）の要請があれば、それに応じて関係者の同意を得た上で、緊急的に放流することもあるものです。 （これを「異常渇水補給」といいます） 【下記ページに解説画像を掲載中】 【URL】 https://www.thr.mlit.go.jp/bumon/b00037/k00290/river-hp/kasen/damu/kaisetsu.pdf
Q3	ダム上流域で雨が降ったと思うけど、貯水率が0%のままなのはなぜ？	・鳴子ダムの貯水位が、「最低水位」である標高231.0mを上回るまでは、貯水率は0%のままとなります。 ・9月11日に貯水率0%を上回りました。
Q4	いつまでかんがい用水を補給する必要があるの？	・鳴子ダムの「最低水位」以下からの放流と、臨時的な水利使用許可をした岩堂沢ダム（宮城県管理、かんがい専用）からの放流とにより、水田が多くの水を必要とする時期（かんがい需要の増大期≒出穂期 一部の水田を除き概ね8月中旬まで）におけるダム下流でのかんがい用水に支障が生じないように補給を続けてきたところです。 今期はダムからのかんがい用水の補給は8月末に終了しました。
Q5	ダムの状況が改善するにはどのくらいの雨が必要？	・雨の量は分かりませんが、これだけ降雨量が少ない状況が長期間つづくこと、それなりのまとまった雨量が降らないと平年のような状態には戻らないと思われます。
Q6	貯水率0%は今回が初めてなの？	・貯水率0%は過去に何度かありました。もっとも近いのは、平成6年（1994年）の渇水であり、今回31年ぶりとなります。
Q7	岩堂沢ダムと連携し、下流河川にかんがい用水を補給しているの？	・そのとおりです。両ダムで放流量を調整しながら、必要な期間、かんがい用水の補給を行います。（下流河川の流況に応じ、放流量を増減させます）
Q8	このまま雨が降らなかった場合、ダムは干上がって（空になって）しまわないの？	・ダムには、常に上流の川から流れ込んでくる水があり、この水が涸れることはないと考えております。 ・このまま雨が降らなくとも、この上流から流れ込んでくる水の量と同程度の量の水は放流し続けることが可能ですので、ダムが干上がって（空になって）しまうことはありません。
		☞「令和7年渇水における鳴子ダムの利水補給実績（R7.9.3）」はこちら https://www.thr.mlit.go.jp/naruko/oshirase/pdf/20250903naruko.pdf